

報道機関各位

令和7年 年頭所感

令和7年 1月8日
葉山町長 山梨 崇仁

新年おめでとうございます。

年末から穏やかな晴天の日が続き、歳末特別警戒も事故や事件、災害に見舞われることなく、非常に穏やかな新年を迎えられたと実感しております。昨年は、年始の能登半島地震や、8月に震度6弱を記録した宮崎県の日向灘地震が発生しました。同時期には、南海トラフ地震臨時情報が発表され、巨大地震への緊張が高まる中、翌日には神奈川県西部を震源とする震度5弱の地震が発生し、我々県内の行政機関にとっては非常に緊張感のある夏でした。

また他にも能登半島を含め、豪雨被害も多数発生し、台風10号では、二宮町など湘南や県西、県央の地域にも豪雨被害がありました。被災され、亡くなられた皆様には、ご冥福をお祈り申し上げますとともに、今もなお災害の影響を受けている皆様に、心よりお見舞いを申し上げます。世界や国内においても、経済、社会、気候変動など激動の時代を感じる一年だったと思います。

一年間、全国若手町村長会の会長職や神奈川県町村会の副会長職を務め、期数を重ねる中で、他団体の首長との情報交換の機会が増えたと感じております。また、災害に対する地理的な面や居住環境などにおいて、葉山町の強みを感じることも多くありました。年末には三浦半島4市1町首長連携会議、通称ファミリーミーティングも設置され、三浦半島を一つとし、またそれを母体としてこれからの自治体連携がますます強まることに期待と希望を持っております。

また、町制施行100周年をきっかけに葉山の皆さん、それ以外でもたくさんの「葉山愛」に触れ続けた一年でした。そして支える立場にありながら、その都度に様々な思いが交錯し、言葉では表しにくいのですが、前向きに、多くの感動を味わいました。町の皆様のご活躍が素晴らしすぎて「未来の葉山に希望」を感じました。一生の宝です。役場の職員さんもとてもよく働いてくれました。議会の皆さんも改革に常に積極的で本当に感謝しています。新年も縁の下から葉山町の舞台作りに全力を注ぎます。

さて、本年直近の取組みは、生ごみ資源化処理施設の竣工と稼働です。稼働が延期されたことにもなう事業者との協議を早期にまとめ、その関係で連動する逗子市・鎌倉市の皆様へのご心配を取り除くべく、葉山町の誠意をお示ししてまいりたいと思います。一方、町民の皆様におかれましては、予定通り3月から生ごみの分別収集が始まりますので、分別種類が一つ増えることと、燃やすごみ削減へのひと手間が定着するまで、多少でも不安を感じる方がいらっしゃることも認識しており、できうる限りの支えをしてまいりたいと考えております。

次に令和4年3月に発表した保有保全の方針を元に、本年6月には公共施設再整備の方向性をまとめた「(仮称)葉山町公共施設等将来構想」を発表し、学校施設や老朽化した公共施設等の総合的な配置について、基本的な方向性を明らかにしてまいります。その後、

具体的な施設の姿については広く議会や町民の皆様との議論を必要とするものですので、各施設の個別方針の確定までさらに慎重に検討を続け、再編の設計・施行まで進めたいと考えております。

本日は南郷上ノ山公園に、インクルーシブ広場がオープンしましたが、今後も継続的に南郷上ノ山公園や町内各所の公園の改革を続けます。南郷上ノ山公園にはドッグランもありますが、ペットとの共生社会の実現に向けても引き続き挑戦を続けてまいります。

交通に関する取組みについては、去年は地域公共交通会議において計画策定の議論を深めてまいりましたが、タクシー補助券やシェアサイクルの拡大、はやまるタクシーの実証運行など、令和 6 年度内に開始した試行的取組みで、課題や希望も多く見られました。令和 7 年度からスタートする計画のとりまとめと本格運用につなげてまいります。

また、財源確保の取組みとして改善を進めてまいりましたふるさと納税も、令和 6 年末大幅に増額を図ることができました。引き続き有効な財源確保の手段として、さらに大きく踏み込んでまいります。

さらに、今年の挑戦として、二つの目標に心して取り組んでまいります。一つ目は民泊対策です。民泊は有効な宿泊手段かと思いますが、前提として地域の住環境を理解し、地域からも理解の得られる民泊事業を行っていただけるよう、葉山町の向き合い方を町独自に検討しようというものです。直接的な権限はありませんが、地域の声、周辺住宅の皆様への安心と穏やかな暮らしを守るため、地域自治体としてどのような支援ができるか挑戦してまいりたいと思います。

そして、二つ目がはやまエシカルアクションです。令和 4 年からはじめたはやまエシカルアクションは、エシカル給食やはやまエシカルパートナーとのオフ会、エシカルな事業者を表彰するはやまエシカルアワードを開催し、着実な浸透を図っております。今後も環境の町として、葉山町全体の意識をさらに高めるべく、飲食業の皆様や賛同事業者の皆様を中心に町独自のエシカルアクションをさらに強力に推進していきます。

役場組織も 1 月 15 日に「はやま raku っと窓口」の導入を図りますが、便利なシステムで利用者の皆様がどこからでもスムーズに申請や諸証明の発行など行えるようにするだけでなく、ご来庁された方はワンストップで必要な手続きが完了したり、もしくは生活相談など、じっくり相談したり、より手厚い役場機能の活用が図れる環境構築を推進してまいります。

令和 6 年 12 月の第 4 回定例会において可決された第 5 次総合計画の基本理念である、「自分らしく、つながるまち」のもと、葉山のウェルビーイングを実現することで、葉山に住むことの幸せや充実感をさらに高められるよう、あらゆる面からアプローチしてまいりたいと思います。

このような舞台装置を仕掛けとしてしっかり作ってまいりますので、町民の皆様におかれましては、それぞれが大切にされる信念をもって、皆様それぞれのペースで、葉山で躍動し、町を彩っていただけることを願っています。